



勉強法

後期になり、科目選択なども本格化していることもあって、いよいよ始めなければ…と決意を新たにしている人がいるのだろうか（「ぬるにやあらむ」？）、先週3人の諸君から「古文の勉強法」について質問された（理系古典を選択するか・しないかという話ではなく、純粋に勉強法の話である）。2年生の今ごろになって勉強法もないだろうとは思いますが、しかし、今までの自分のやり方を振り返りながら、もう一度しっかりやってみようということのようなので、その人の実力をみながらいろいろアドバイスすることになる。せっかくだから、一般的なアドバイスのポイントをここにも書いておこう。

古典の勉強は、古文も漢文もたった一つだけで、それは「正確に訳す」ことに尽きる。だから勉強も実に簡単で、古文（漢文）リスニングもなく古文（漢文）作文もない以上、ひたすら「正確に訳す」ことを心がければよいのである。その「正確に訳す」際に必要になるのが、古文なら「①語彙力＋②文法力＋③常識力」、漢文なら「①漢字力＋②句法力＋③常識力」となる。だから、常にこの①②③を意識しながらひたすら「正確に訳せ」というのがアドバイスとなる。

具体的には、古文ならノートの上半分に本文を3行空きくらいに写して（これが語彙力を養う基礎になっているのだから、特に理系の諸君は、あと半年の後期にしっかりやってみなさい）、その下に訳を書くということである。予習プリントで重要語は挙げてあるから、それを参考にして訳をつくる。もちろん、重要語は①だから、それにプラスして、助動

詞や敬語などの②を意識して正確な訳を目指すわけである。わからない所は無理せずに空欄にしておけばよい。空欄になっていれば、むしろ授業の際に注意が向くというものだ。

この「正確に訳す」作業の際に意識してほしいのが「主語」。これは授業でも繰り返しているとおりで、どこで主語が変わるのかを考えながら訳すことを繰り返すと、初見の問題に出会った時でも、最後まで本文を追跡することができるようになるのである。

漢文の方は、書き下し文が簡単な訳に相当するわけだから、書き下し文を正確につくることが全ての基本。その際、脚注にまとめられている句法を意識して②の力を養成する。そして、それをさらにわかりやすい日本語に置き換える際、うまく置き換えられない漢字を見つけて辞書を引き、その漢字を使った熟語を上手く活用して訳をつくるように意識すると①がつくるのである（これは現代文の基礎力養成にも結びつく）。

ノートを作る際は、そろそろ時間もないだろうから白文を写すという部分は省略して、ノートの上半分に書き下し文、下半分に簡単な訳を付すというのがいいだろう。訓点については、授業で徹底的に練習しているわけだから、その時間を積極的に活用すればよいし、書き下し文をつくるという作業を繰り返せば、それが自然に訓点に慣れることにもつながってくるのである。

＊

勉強法に悩むことがあったら、科目選択の相談とも兼ねながら、遠慮なく各教科の先生に相談に行こう。今がそのチャンスである。